

## 諏訪マタニティークリニック病院長 根津八紘 (Yahiro Netsu)



### <略歴>

1942年	5月 長野県松本市生まれ
1968年	信州大学医学部卒
1968年	琉球政府(現沖縄県)立中部病院ハワイ大学 インターン・レジデントコース履修
1971年	沖縄県コザ市(現沖縄市)上村病院勤務
1973年	信州大学医学部産婦人科学教室助手
1976年	下諏訪町に諏訪マタニティークリニック開業
1986年	SMC(Self-Mamma Control: 自己乳房管理) 方式確立
1986年	減胎手術施行(日本初、世界第2番目)
1998年	非配偶者間体外受精実施、公表(日本初)
2001年	代理出産公表(日本初)
2006年	着床前診断公表(日本で2番目)

### <所属>

日本母乳哺育学会、日本産科婦人科学会、  
日本産婦人科医会、日本形成外科学会、  
日本受精着床学会、日本母性衛生学会、  
日本生殖医学学会、日本医学教育学会

### <ひとこと>

悩む患者さんがいる限り、私は続けます。

## 病院のご案内

### 理念

当病院は今年の8月1日で開設34年目を迎えました。当初5人のスタッフと11床の産婦人科医院としてスタートし、現在は4人の医師と110余名のスタッフを抱える33床の産科・婦人科・小児科病院として地域医療に関わっています。開設以来、目の前の患者さんのお役に立ちたいとスタッフ一同真面目に医療行為を行なってきました。当病院理念についてお話しさせていただきます。

#### 1. 目の前の患者さんの立場に立った医療施設であること

私は医学部時代、医者は特別な人間、選ばれた人間というような考え方をインプットされた時期がありました。しかし、後になって友人から「元を質せば只の人」と言われた通り、私はたまたま医療の世界に入っただけで、決して特別な人間ではありません。ただ、もし特別であるとするならば、夜中であろうと、ずっと食事をしていなくても急患が来院すれば診察し、人の命を問わず、人が嫌がる危険な(感染を伴う)医療にも関わるといふ、特別な職種の人かも知れません。そのような仕事を全うするからこそ人から医師をはじめとする医療者は尊敬されてきたのでしょう。

「患者さんのために医療があるのであって、医療のために患者さんがいるのではない」常に患者さんの気持ちや症状を理解しながら、どうしたらより良い医療を提供できるかを考え、患者さんに寄り添った医療施設でありたいと思います。

#### 2. 清潔で信頼される医療施設であること

医療施設は常に清潔であること、これは当たり前のように、なかなか徹底されていないことがあります。当施設では開設以来、掃除とメンテナンスにかなり気を遣ってきました。スリッパに関しても、患者さんが一番触れる機会が多いため洗濯のできるものを選び、消毒も気を付けています。

その他、患者さんとの対応、医療内容についても、常に信頼されるに値する施設であるべく努力して参りました。しかし、そうは言ってもまだまだ不十分な面があろうかと思えます。スタッフ一同これからも弛(たゆ)まぬ努力をして行く所存です。

### 3. 常に 10 年先を見詰めた医療施設であること

施設設備に関しては当初 10 年先を考えて造り、その後、現在に至までにも幾度も増改築し続けています。スタッフも、まず現在の医療をしっかりと把握し、10 年先の医療を想定して勉強と研究、そして創意・工夫を弛(たゆ)まずやり続けることを常に行なってきた。なぜならば、最先端のより良い医療を患者さんにお届けすることが、医療者としての使命と考え、また、そうあることに誇りを持ち続けたいというのが、私を始めスタッフ一同の望みであるのです。システムに関しては、いち早く様々なことを取り入れてきました。院内ポケベルの導入その後院内 PHS の導入、4Dの超音波機器やマンモグラフィーの導入、等々。また、医療内容に関しては、三拍子自立分娩法、SMC(自己乳房管理)方式等の開発、普及。また体外受精施設--諏訪リプロダクションセンター(吉川文彦所長)の開設と、様々な生殖医療への挑戦。清水宇宙生理学研究所(清水強所長)の開設。0 歳児保育の出来る母乳保育士の独自養成、等。数えれば枚挙に遑(いとま)が無い数々のことを行ない続け、今も 10 年先を想定しながらより良い医療を提供できるために歩んでおります。

昭和 51 年 8 月 1 日のお舟祭りの日に正に 0 からスタートした当病院は、これらの理念の下、更にその内容を深めながら邁進し、患者さんのお役に立つ施設でありたいと思っております。

諏訪マタニティークリニック病院長 根津八紘